

一人一人が未来の創り手となる豊かな学びの創造

— 中学校国語科における「問い」と「振り返り」の工夫を通して —

指導主事 田上 貴昭

研究協力員 山都町立矢部中学校 教諭 寺田 亜紀

1 はじめに

これからの社会では、文化や国家の違いを超えて社会的な問題を解決したり、世代や価値観の違いを超えて個人的な問題を解決したりしていくための「合意を形成する力」が重要になる。合意の形成のために重要な役割を果たすのが言語であり、言語の力を高めるための中心的な役割を国語科が担っている。

一方で、学校現場からは「話し合いが意見の“言い合い”になってしまう」「話し合っても新しい価値が生まれない」等の声も聞こえてくる。これからの社会で重要であるはずの合意を形成する力の育成が課題になっていることがわかる。

本実践では、話すこと・聞くこと領域の単元「合意を形成し、課題を解決する」において、対話によって合意を形成する力を高めるための単元学習を行った。「話し合いの進め方」を意識した話し合いを通して、将来にわたって活用できる「対話によって合意を形成する資質・能力」を育成することをねらっている。

2 研究の視点について

(1) 視点1『見方・考え方』に着目した問いの工夫について

国語科の「見方・考え方」については、新学習指導要領解説国語編に、「言葉による見方・考え方」として次のように示されている。

言葉による見方・考え方を働かせるとは、生徒が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることであると考えられる。

上記のような、生徒の「見方・考え方」を働かせるために重要なのは、生徒の思考を引き出す「問い」である。本実践においては、単元を通して「合意形成のためにはどのような話し合いの進め方が有効か」という問いを持たせた上で、単元構成の工夫によって生徒が様々な話し合いの進め方について理解

し、課題に応じて活用することができるような単元構成を工夫した。

(2) 視点2「学びを実感する振り返りの工夫」について

「問い」の工夫によって、見方・考え方が働く学びが実現できたとしても、生徒が自身の学びの価値を自覚化することができなければ、主体的な学びを実現したり、生徒の国語の力を高めたりしていくことは難しい。学びを自覚化させ、国語の力を高めるためには、振り返りの役割が重要になる。

話すこと・聞くことの授業で取り扱う音声言語は可視化しづらいという特質があり、どのように話したか、どのように聞いたか、どのように話し合いを進めたか等に意識が向きにくい。話し合いの進め方を「ツール」という形で可視化し、こまめに振り返らせることで、話し合いの進め方を理解させたり、そのメリットを実感させたりしながら、対話によって合意を形成する資質・能力を育成したい。

3 研究の実際

検証授業 中学校第3学年1組
単元名 合意を形成し、課題を解決する
～企画会議をしよう～

(1) 本単元の授業設計

本単元は中学校学習指導要領第3学年A話すこと・聞くこと「エ 話し合いが効果的に展開するように進行の仕方を工夫し、課題の解決に向けて互いの考えを生かし合うこと」の学習である。

生徒たちはこれまで、多数決で課題を解決する（選ぶ）話し合いを多く経験している。本学習で目指すのは、対話によって合意を形成する（納得解や新たなアイデアを生み出す）話し合いである。生徒の話す・聞く能力を生かしつつ、互いの考えのメリット・デメリットを明確にしたり、考えを多面的・多角的に分析したりして調整点を見出し、それぞれの

考えの良さを生かす話し合いの進め方を理解することで、将来にわたって活用できる「対話によって合意を形成する資質・能力」を育成することができる単元である。

(2) 単元の目標

日常生活や、社会生活の中の課題を解決するための対話を通して、話し合いが効果的に展開するように解決に向けて互いの考えを生かし合う話し合いの進め方を理解し、合意を形成するための話し合いができる。

(3) 単元計画

- 第 1 時 合意形成について理解する。
ベン図で話し合う。
- 第 2 時 投票法で話し合う。
- 第 3 時 チャート式で話し合う。
- 第 4 時 マトリックス表で話し合う。
- 第 5～6 時 話し合いの進め方を選んで、学級の問題について話し合う。

(4) 研究の視点

【視点 1】

単元構成を工夫し、話し合いの進め方を意識させながら話し合わせたり、課題に応じた話し合いの進め方を選ばせたりする活動を設定することで、お互いの考えについて根拠にこだわりながら検討させ、合意形成に対する考えを深めさせる。

【視点 2】

「合意形成のためのスキル」「話し方・聞き方」「スキルを使う場面」にわけて振り返りを記録、授業を重ねるごとに合意を形成するための力がついていると実感させる。

(5) 授業の実際（第 4 時を中心に）

① 第 1～3 時について

第 1～3 時において、生徒は「合意形成」とはどのようなものか理解した後、ベン図、投票法、チャート図を用いた話し合いを経験している。各時間の振り返りについては振り返りシート（【資料 1】）を用い、それぞれの時間で用いた「合意形成のためのスキル」「話し合いの振り返り（成功したこと、

時	①合意形成のためのスキル ②思考ツール ③「テーマ」	話し合い終了後の振り返り (話し方・聞き方)	実際の生活との関連 (最終目標やこれからの生活にどう関連しているか)	
第一回	① 共通点を出発点にする ② ベン図 ③ クラス対抗ソフトボール大会	○ 新之将君の試合形式(11-11戦)、健斗君のルール(打順を交替する)の案を出してくれて良かった。結論にいきついた。	○ 具体的に聞く事が出来なかった。 (全員の意見は聞けた)	家族のルールをつくらせ
第二回	① Xリット ② 投票法 ③ NASAゲーム	○ 皆の意見を考えを新之将君と健斗君がより深くしていきついた。 ・全員の意見が聞けた。 ・合意者も何人かに意見を聞いて。	○ 最後の方がトクバタしていた。(時間配分)より詳しく意見を聞けた。	養育中のいっしょに入るものとしはげすこと。
第三回	① 様子が立場やその先の結果を視覚化 ② チャート式 ③ お悩み解決	○ チャート式を使うことでより詳しく意見を深められた。 ・時間内に結論がでた。	○ 短時間で意見を言えなかった。(私はセートの前持ちで)	進路選択のとき。
第四回	① 比較対分 ② マトリックス ③ 「マイボトル」ポスター決定	○ 第二回にもでたXリット、マトリックスを活用できた。 ○ 一人ひとりの意見を話すことができた。詳しく(前)より詳しく意見を深められた。 ○ 様子が視覚化で	○ Xリットやマトリックスを特定の人の意見が聞けた。	学校紹介をする際、つくること。

【資料 1】 振り返りシート

うまくいかなかったこと)」「実際の生活との関連」について毎時間まとめていった。【視点 2】

また、前時でうまくいかなかったことが、次時以降で成功した場合には、それらを線で結ぶことで、前時の課題を克服しようとする意欲付けを行っている。

② 第 4 時（検証授業）について

第 4 時はマトリックス表を用いて、以下の課題について話し合った。【視点 1】

[本時の問い]

マイボトルの利用を勧めるためのポスターとして、最も優れているものを決めよう。



生徒たちは、事前にそれぞれの考えをまとめてきていた。その意見を付箋に書き、その付箋をそれぞれのポスターをカード化したも



のに貼り付けながら意見を出し合った。

次に、そのポスターがマトリックス表のどこに位置するのかについて話し合った。マトリックス表の項目については、それぞれ班で違うものを用いている。次は、ある班の話合いの様子である。

生徒 a : これ (C) は、「すべての人に伝わる」という観点について) 下の方だよね。
 生徒 b : (カードを動かしながら) こっち (「マイボトルの推進」という観点について) は?
 生徒 c : ちょっと言葉が足りないよね。
 生徒 b : おしゃれボトル (B) がちょっと勝ってて…。
 生徒 a : これ (A) は一番。俺的には一番。小さい子が「あれ何?」って言って、親もそこに行って見て、興味を持ちそう。
 生徒 c : 「持ちたい」っていう気分になるよね。
 生徒たち : (うなずく)
 生徒 b : (新しく出た「子どもが興味を持つ」という意見を付箋に書いてカードに貼る)
 生徒 a : (A) はけっして、高齢者の方向きではないよね。
 生徒 c : 男性もね。
 生徒 b : (新しい意見を付箋に書いて貼る)

生徒は、マトリックス表の2つの観点を使いながら3つのポスターについて分析を行っていた。



その後、グループの話合いの結果を代表が発表した。次は、同じグループの発表内容である。

私たちの班は(A)のポスターが一番いいと思いました。まず、(C)は、ぱっと見て、すぐにマイボトル推進の意義があるということが伝わりにくいので、一番低くなり、(B)は、女性には効くかもしれないけれど、高齢者や男性にはあまり興味を持たれないかもしれないということで、ここになりました。(A)は、色が水色と白ということで少し見にくい部分もあるけれど、マイボトル推進の目的が一番伝わりやすく、どの世代が見ても分かりやすいので、これがいいと思いました。

この発表に対して、教師から「(A)が) マイボトル推進の目的が一番伝わりやすいということですが、どこから分かりやすいと判断したのですか」という

質問があり、次のようなやりとりが続く。

生徒 c : (B)であれば「おしゃれ」という言葉が一番目立っていて、資源の無駄遣いを減らすということが分からないと思います。
 教師 : (B)よりも(A)が良いということですか? Aが適しているというよりも、Bよりも良いということで決めたのですね。
 生徒 c : はい。

ほとんどの班の発表に対して、教師からの質問があり、生徒は、改めて自分たちの意見の過不足を自覚化していた。

③ 第5～6時について

第5時は前時までに学習してきた、ベン図、メリット・デメリット法、チャート図、マトリックス表のうちいずれかを選んで、「中学校生活最後の合唱コンクールを成功させるために、どうしたらよいか」という議題についてまず班で話し合った。

8つのグループのうち、3つの班がチャート図を、2つの班がマトリックス表を、1つの班がメリット・デメリット法を選んでいった。

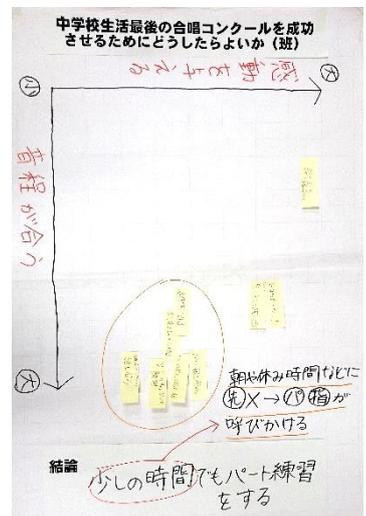
次は、マトリックス表を用いて話し合ったグループの感想とマトリックス表 (【資料2】) である。

国語科ワークシート(合意を形成し、課題を解決する)全画会議 ⑥
 最終目標「中学校生活最後の合唱コンクールを成功させるためにどうしたらよいか」話し合うことができる。
 ①本時の目標
 ②今までの学習で培ったスキルを使って意見を言うことが出来る。
 ③今まで使ってきた思考ツールを使ってスキルを駆使して話し合うこと。

使用した思考ツール

(ベン図・投票法・チャート式・マトリックス)

○マトリックス図を使うことで、メリット、デメリットについて具体的に考えることができた。今回の話し合いでは、全員がメリット、デメリットを言うことができたので良かった。
 ○(マトリックス表で分析することで) 様々な意見の良いところを合わせることができた。



【資料2】マトリックス表

(6) 検証結果と考察

表 1 は、実践の前後に調査した質問紙調査の結果である。

表 1 「学習に関するアンケート」結果より抜粋 (n=30) 4 件法

項目	質問	事前	事後	差
1	あなたは、国語科の学習に興味や関心を持って取り組んでいる。	3.23	3.53	0.30*
2	あなたは、国語科の授業で学んだことが、自分の将来につながると考えている。	3.57	3.73	0.16
11	あなたは、国語科の授業の中で、言葉の意味や働きなどにこだわりながら、話したり、聞いたり、書いたり、読んだりしている。	3.10	3.07	-0.03
15	あなたは、国語科の授業を通して、自分の思いや考えを生かしながら、新しい考えをもつ(アイデアを得る、作品を作る)ことができている。	3.00	3.43	0.43*

項目 1 については 0.3 ポイントの向上が見られた。これについては、第 1～4 時に行われた話し合いが、生徒に興味を持たせ、考えやすい課題で行われたこと、その中で用いられた思考ツールが分かりやすく、良さを実感できたことによると考えられる。

項目 15 についても 0.43 ポイントの向上が見られる。これは第 1～4 時で用いた思考ツールを生かした話し合いにおいてその良さを実感できたこと、第 5～6 時の話し合いにおいても、これまでの話し合いとは違う話し合いができ、よりよいアイデアを出すことができたという実感を持つことができたことによると考えられる。

項目 2 については、0.16 ポイントの向上が見られた。これは、本実践の「対話によって合意を形成する資質・能力を育成する」というねらいが、自分の将来で役立つというイメージが持ちやすいということもあるが、授業の中で教師が折に触れて「将来どのように役立つのか」について語っていたことによると考えられる。

一方で、項目 11 (言葉による見方・考え方についての項目) については、0.03 ポイントのわずかな減少が見られた。実際の授業の様子を観察していて、十分に言葉による見方・考え方が働いていたにも関わらず数値が減少したことについて、元々の数値が高かったことも考えられるが、見方・考え方の働きについて生徒は自覚が難しいことが原因と考えられる。

また、「言葉の意味や働きなどにこだわりながら」

という質問項目の「言葉」の意味を、これまでの小説教材などの経験から「単語や表現技法」ととらえており、本実践における「言葉」が「話し合いの進め方」を指していることをイメージできなかったことも一つの要因になっているのではないかと考える。

4 研究のまとめ (成果と課題)

検証結果より、研究の視点 1 については、単元を通して「合意を形成するためには、どのような「話し合いの進め方」が効果的か」という問いについて考え続けられるような単元構成を工夫することは有効であったと考えられる。話し合う内容についての問い (例: 「マイボトルの利用を勧めるためのポスターとして、最も優れているものを決めよう」) だけではなく、言葉の力についての問いを設定し、自覚化させるような実践については、他領域においても有効であると考えられる。

また、研究の視点 2 についても、継続的に話し合いの進め方について振り返らせ、振り返りの結果を次の時間に生かすことを意識させることで、授業が進むにつれて話し合いの質が高まっており、有効であったと考えられる。

一方で、課題として考えられるのは、見方・考え方の取扱いについてである。今回の実践で、生徒の見方・考え方が十分に働いているにも関わらず、そのことを自覚していないことが分かった。見方・考え方の働きについて、生徒に自覚させるべきものなのか、それとも、教師が働かせることを意識することに留めるのか、今後、検証が必要である。

《引用・参考文献》

- ・文部科学省(2017)「中学校学習指導要領解説 国語編」
- ・文部科学省(2016)中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」
- ・国立教育政策研究所(2007～2017)全国学力・学習状況調査 過去問題及び質問紙調査